街並みウォーキング　　2007.1.9

和紙　と　うだつの街　美濃市

１月９日久しぶりに街並みウォーキングに出かけた。高速道路の雪情報をチェックしたところ OK だったので、8 日の夜急きょ決定し関市を訪ねることにした。　ところが急いだため下調べが不十分だった------

関市の施設は火曜日休み

いつものように 8.30”に出発して知多半島道路から湾岸高速、東海環状道に入る。車は少なく快適に走る、御嶽 IC 辺りから周りは白い世界になっている。一般道路は大丈夫かなちと心配になる。東海北陸自動車道との JC てまえの富加関 IC で降りて関市内へ向かう。ここで降りたほうが関市は近い、途中にナイフ博物館があるので寄って行くことに。
ところが案内に沿って進むと車の入れる道路はなく、駐車場も見当たらないのだ。何箇所か案内の→はあっても車が入れる道路は見つからずあきらめた。
そのため刃物会館などが近いのだが、先に市役所へ向かうことにした。
観光課で地図やパンフレットをもらい、刃物関係と円空関係の施設について訪ねると、何とみな火曜日はお休みというのだ!!火曜日休みというのはあまり聞いたことがない、がっかりである。これでは致し方ないので関市の散策はあきらめて、隣の美濃市へ向かうことに変更した。

うだつの上がる街　美濃市

Ｒ１５６に出てしばらく走ると美濃市に入る、駐車場を探していると小倉公園の案内が目に留まった。そちらへ向かうと図書館があり駐車場もあったので車を停めた。
そこからうだつの上がる街並みへ向かった。ここは国の選定する重要伝統的建造物群保存地区になっている。二本の通りとそれを結ぶ通りが目の字型になっていて、見て回るにはとても分かりやすい。
二本の通りは一方通行になっているが、車の通行は多く、駐車している車もありゆっくり見て歩くには危険なくらいだ。観光を売り物にしているのだから、観光客がゆっくり安心して歩けるように時間規制をするとかもう少し工夫してほしいと思った。

散策地図

雪が残る通りにうだつの上がる街並みが続く景色は、落ち着いた日本の原風景ですばらしい。松久家、加藤家、小坂家、武藤家、梅村家など立派なうだつの上がった家が並んでいる。そして新しく建てた家も昔風の造りで建ててあり、周囲の調和を崩さないように勤めている。こうした多くの人の理解と協力があって、初めてうだつの街並みは守られている。大変なことだと思う。
平成１１年、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けています。

「うだつ」とは…

屋根の両端に一段高くしつらえた防火壁のことである。鬼瓦の下に八の字に広がる破風瓦があり、その下真ん中に懸魚(けぎょ)という飾りがついている。火災の類焼を少しでも防ぐために作られたものだが、やがて和紙産業の隆盛に伴い豪商らがうだつ飾りの装飾性を競うようになり、それらがこんにちまで残されてきたのです。しかし、明治になって隣との地境が問題となり、以後は造られなくなりました。

国の重要文化財「小坂家住宅」

中でも素晴らしいのが小坂家住宅だ。江戸時代から続く造り酒屋で、丸みをおびた「むくり屋根」の美しさには目を惹かれます。

小坂家の構えとカーブした屋根

うだつはその両脇と中央にも一つあり、屋根に合わせたゆるやかなカーブを描いています。瓦を敷くのにどのようにするのか、何を基準にするのか?? かなりの技術が要求されることだけは間違いない。

旧名鉄美濃駅は国登録有形文化財

保存地区から長良川鉄道の美濃駅に向かう途中に、旧名鉄駅はたたずんでいる。美濃と岐阜を結んでいた電車は平成１１年にその役目を終えた。大正期の近代建築である駅舎と線路、そして電車２両を当時のまま展示している。しかし、今日はお休みで中へは入れなかった。柵越にホームと電車を眺めることしかかなわなかった、ちょっと残念だ。

現在は国の登録有形文化財として保存されているのだ。ローカル鉄道がどんどん姿を消していくのは寂しい限りだ。こうした問題の解決策の一つとしても広域行政を推し進めるべきと思う。
自分たちの町の財政がよければ良いというのなら政治ではない、自分たちも周りの人たちも豊かになる、あるべき姿を描くことこそ政治だと思う。

名鉄美濃駅

展示されている電車

旧名鉄駅から数百メートルの所に長良川鉄道の美濃駅がある、駅は喫茶店となっておりお年寄りが数人お茶をしているのが見えた。待合室には学生が数人いてお喋りをしていた。その横の改札口には、自由にお入りくださいと掲示があった。ちょっと珍しいでもなんとなくいい感じ!!
しかし、電車の本数はラッシュ時を除けば１時間に１本くらいしかない。利用客の少ないローカル鉄道の姿がここにもあった、１０年先、２０年先にはどのようになっていることか!!

上有知(こうずち)川湊灯台

再度保存地区に戻り、うだつの街並みを歩いて昼食にした。操業 100 年という「山水」でランチをいただいた。これがなかなかしゃれていて天むす２個に鍋焼きうどん、茶碗蒸し、酢の物、フルーツと香の物だ。
中でも天むすの味は抜群だった、おいしい食事の後は保存地区から長良川沿いに向かった。そこにもうだつの家があり、懐かしい赤いポストも立っていた。そして、製紙工場もあった。うだつの観光だけでなく製紙工場もそのコースに入れたら良いと思う。そんなすばらしい財産がまだまだあった。
それが上有知川湊であり、川湊灯台である。県指定史跡の上有知湊跡は慶長６年(1601)金森長近が領主となり小倉山城を築き、城下町上有知をつくりました。その繁栄策としてここに湊を開き、舟６０艘を置き物資交流の

要地としました。おそらく特産の美濃和紙も、ここから全国へ送られたことでしょう。その後江戸時代は美濃の国四大川湊の一つとして明治末年電車が開通するまで水運の拠点だったのです。

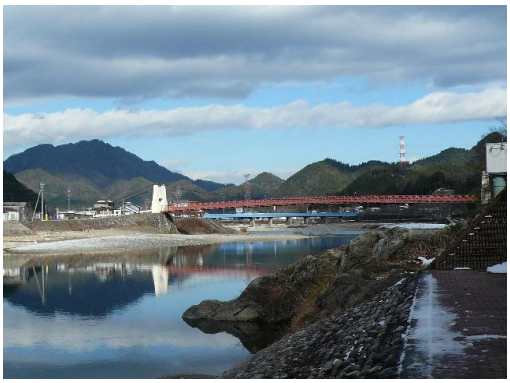
凛とした姿の川湊灯台

そして水の神様住吉神社の献灯を兼ねて、江戸末期に住吉灯台が建てられ川面を照らしていました。川湊の灯台として現存する全国的にも珍しい貴重な建造物です。隣のビルより高く、黒い板が張られてすくっと建つ姿はキリリとしたすてきなものでした。

最古のつり橋「美濃橋」は重要文化財

川湊灯台のすぐ近くに現存する最古の近代つり橋「美濃橋」がある。昔は人だけでなく人力車や大八車なども通ったことだろう。大正５年(1916)に造られ今は人だけ通れる、それも２０人までと注意書きがあった。せっかくなので向こう岸まで渡ってみた。踏み板は少し傷んでいたが、これらの保全も大変なことと思う。
長良川の水は澄んでいてきれいな流れだった、でも川風はさすがに冷たい。しかし広々とした川の景色は雄大で美しい。また長良川に沿って美濃橋付近には曾代用水が流れている、休憩の東屋は桜並木やもみじの中にある。シーズンなら絶好のポイントだろう。この用水は水田を開くため寛文7年(1667)に着工し、１０年の後に完成したが、予算はオーバー、新田開墾当初は収穫もなく大変難儀をした。しかし２０年後に大恩恵をもたらし

た、水路延長 17km 通水いらい３００年、水は今も多くの人々の生活を潤している。



美濃橋と長良川の景色

街を一望する小倉山城

関が原の戦いで功のあった金森長近は、徳川家康から上有知(旧美濃町)をもらいました。風流を好んだ長近は地名を小倉山と改め、ここに城を築きました。小倉山は京都嵯峨野にある風光明媚な所です。長良川を見下ろす小倉山城は城跡一帯に桜が咲く公園になっています。
頂には天守閣ならぬ展望台があり、そこからの眺めは美濃の街はもちろん長良川の流れがよく分かります。先ほど見てきた川湊灯台、美濃橋はもちろんうだつの街並も、その先は関市まで平野が広がっています。

長良川の流れ

うだつの街並

街並を歩き、川べりも歩いてトイレも何回か利用しました。観光を売りにするだけあって、トイレは要所要所に配置されていたのと、とてもきれいでした。そのうえちょっとした休憩コーナーも併設されていました。今まで歩いた街で一番良い印象をもちました。